

緑の郷土

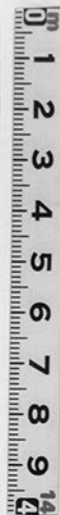
みどり ふくしま

新年號



緑の郷土社

後援
福島県
森林組合
林務部





巻頭言

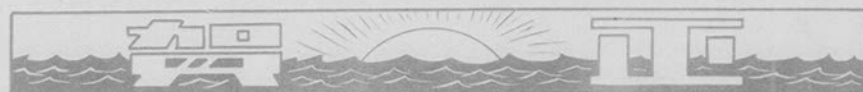
緑の郷土社

匆忙の中に二十世紀後半初年の新春は参りました。昨年度は縣下三百有余の農山村が、郷土緑化に相當の實績を挙げました事は眞に喜びに堪えない處であります。が然し緑なき國の民族は亡びる、これまで言われて居るに句らず。

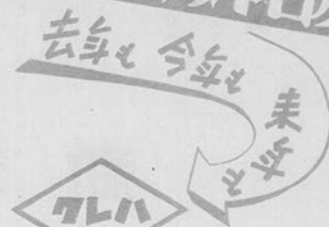
一生涯の中に一本の植樹の経験もない方が都會の人、殊に御婦人に多いと聞いて居ます。今年こそは吾子の誕生日に七五三の御祝ひに、成人の日に結婚の記念に或は吾が家の空地に、鎮守の境内に、公園に或は母校の校庭にと、記念の木を植えます。愛しい吾子の成長と共に、郷土の街が緑に包まれて行くことは繁榮と平和のシンボルでなくてはなでせう。

目次

表紙(一切山道より愛む奥書)	廣澤榮太郎
巻頭言	緑の郷土社
年頭の言葉	吉田満
本名杉原のお土産	松崎愛子
文獻に現れた勿來の國	鈴木光四郎
平十三日の想い出	大森男
青少年を持つ御母さん方の爲に野	齊藤一男
球に就いての御話	緑の郷土社
緑の郷土町の森林學校を訪ねて	吉田昭彦
聲城舞子	新田昭彦
映画の觀方	山口香
藤田の佛具山	山口香
庭に埋れた大森先生	山田香
忘れもの、落しもの、さがしもの	山田香
俳句の語	山田香
草花栽培法について	山田香
読安の出来るまで	山田香

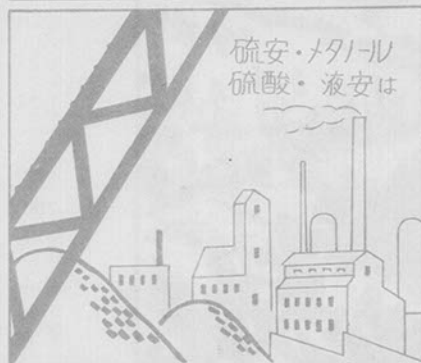


過燐酸



羽化学

本社・東京 日本橋 富沢町
工場・福島県石城郡錦町(常磐線-勿来)



硫酸・ナトリウム
硫酸・液安は

日本水素

本社・工場
福島県石城郡小名浜町
〒小名浜 501-505・119



岡本工業株式会社福島工場

福島県石城郡小川町駅前



年頭の言葉

吉田満

新年御目出度う御座います。本年も奮って御協力下さる様御願ひ申し上げます。

私共の緑化運動がどれだけ社会に役立つかと云うことは将来に待つより外ありませんが、本誌刊行に當り援助と激励とを寄せられ、その心からなる御協力に對し同人一同常に感激致して居る次第であります。

國家百年の計として治山治水に關心を持たない方は恐らくないと思ひます。然し生きる爲めには余りにも多くの厳しい現實の面があります。現在木を植えずとも今日の生活に差し當り支障がないばかりでなく、これを事業として實行するに、余りにも採算のとれない割に合はれ切つて居る大事なこの運動が、廻々として進まない隘路は、こゝにあると思ひます。従つて私共の運動が一つの悲願である所以も、こゝにあると存じます。

は此半分に達して居りません。現在の日本は立木材積が六十億石ありあると云われて居ります。その五割は、奥地で開發できないのと伐採が可能でも不安な林で伐木できないのとで占めて居りますので實効立木は三十億石前後であります。これを十年間の様な伐採をして居つたなら、今後二十年余りで目の届く限りの山野は悉く荒山と化す事は明かな事實であります。そこで國有林は計畫伐採を實施しても私有林はこれにならうとしないので濫伐防止の方法として種々な制度が法制化されて参りました。その中に已むを得ない事情であるものと存じます。一方國內復興の爲には莫大な木材が必要であり之を阻めばそれだけ復興が後れる事は何人も否定出来得ない事でありました。こうした矛盾した自他共に迷惑な制限をなくするには、より多く木を植えるより他に手段方法はあります。

うと思はれます。然も木材の不足は世界的であります。將來自由貿易が再開される時期が来ても原木の値上りや輸送費の高騰等を考へると恐らく戦前の様な譯には行かないと存じます。況や國際事情の緊迫は一層明るい見通しが出来得ない状況であります。せめて木材だけでも自給自足でまかなつて行きたいと存じます。

時代離れのした思想かも知れませんが、古人の言つた、「木は祖先にかりて子孫に返すべきもの」との片言は含意のある言葉だと信じて居ります。先人の植えた木に寄つて生活して居る以上次代を繼ぐ子孫の爲に荒廢のまゝの國土を引續いては眞理に反するものと考へます。

如何なる民族でも、緑と離れて、森林と離れて、木材と離れて生活し得る民族はありません。多難な二十世紀の前半を送り、又多事多端な事態を予想される一九五一年を迎えました。この年頭に當り私共は万難に屈せずこの運動に精進することを御誓ひし、何分の御支援をお願いいたします次第であります。最後に縣當局並に三井林務部初め各課皆様の御後援下さいまして本誌刊行の御助成下さいました事に万腔の感謝の意を表し年頭の言葉の結びと致します。

謹賀新年

石城地方事務所、平市役所、石城町村會事務所

衆議員議員

關内正一

參議院議員

木村守江

縣會議長

連沼龍輔

縣會議員

植田万次郎

縣會議員

馬目武之助

縣會議員

小野義一



本名杉

視察のお土産

松崎愛子

杉の木は土地によつては挿木でも結構育つと聞いてゐますが、一般には實生から苗圃で育てた苗木を移植するのが常識とされてゐます。

電源開發で外資導入やら福島新潟兩縣の主張やらで、最近頼にクロームアップされた只見川沿岸には苗木も挿木も不要な株吹きといつて、丁度納や櫛の様に切株から出た新芽が成長して、大木になるといふ誠に貴重な「本名杉」と呼ばれてゐる杉の大木が密生して居ると聞いてゐました。これは、緑化運動に關心を持つ私共は是非一度視察したいとの希望を持つて居ました。その願が叶つて、此度視察旅行をするのが出来ました。

霜月月初の某日未明に始發平を發ち、途中郡山で磐城西線に若松で宮下線と二回乗換へ、虚空蔵さんで名高い御津驛から五ノ宮で下車したのが午後三時過ぎに居ました。

ここは御承知の日本發達電が開

發した有名な宮下ダムがあり、ここから本名杉の産地本名村迄は約二十五軒、バスで一時間半の行程です。このバスは奥只見へ通ふ唯一の交通機關なのでその混雑は一通りでなく、それでは何處を見ることも眺めることも出来ないだらうと、心づかいから、織田先生（平市南町商科醫院院長織田豊太郎氏）がトラックにシートを敷いた急造の展望車を準備して下さいました。親切は受けても施しても人の世をほのぼのとさせるもの、殊に旅先での御親切身にしみて嬉しう御座いました。

沿道は突如として聳え立つ花崗岩の兩側、奇岩の上に緑の針葉樹、このあらしの様に五彩の紅葉、溪谷は幽邃深く豊かな水量は千鈞の神威をたえて悠々流れてゐます。この只見川を宮下町の町端で堰止めた爲、上流八軒余りは湖となつて、湖の上には發動機船やモーターボートが走り、秋の最中の色とり

ん、の紅葉が湖水に映えて、スイスの風景畫を眺めて居る様な錯覺にとらはれます。車はこの湖畔を走つて居るかと思ひ、数分突如の斷崖の山道に登り、幾度となく肝を冷し作らうとくかの十数戸の部落、數軒の山荘を過ぎて奥只見の入口本名村に着いたのは釣親が釣獲した秋の日のたそがれ時でありました。

一般には知れ渡らないで單に本名温泉と呼ばれて居る様ですが、正しくは只見川温泉宿郷、これが私共三泊三日の視察の根拠です。夕陽も迫り視察は明日のこととして、渡船で縣道の崖下から只見川を渡して貰ひました。只見丸、稻荷丸の二艘の渡舟は、私共の四つ倉の船大工さんがこゝで造つたとか、何か親しみを持った感じでもありますが、川淵の浴場に滑き、百數十段の段廊下を昇りつめると住宅と客室が既に三棟建ててあります。こんな不便な山中にこんな真新しい調度や寝具に至る迄に備付けたもの、一つ／＼感心させられました。一本の柱にも一袋のセメントにも經營者や従業員の汗がにじみ居る様な感じがしました。

丁度水戸の日本書家伊東仙湖翁伯が漢や關間に筆を揮つて居られたのと同じく、この經營者の織田先生と折柄人形の様な御孫さん、の令子お山盛りにおられ、上名柿をお盆に山盛りにしてお入りになった奥様を混へ座談會を開きました。

御話は逆つてつて今から十五年ばかり前、木材業を営むで居る弟さんの仁義さんが雇うが、當地に参つた際只見川の川添の淺瀬にガスが吹き出て居る處があるといふので、一日この地を視察し有様の土地と確信しましたので土地の譲渡を受け、昭和十五、十六と二年雪の降りない期間を上総ボーリングを下しました。處二年目に五十度近い温泉が湧出しましたので十七年に現在の住宅を建てましたが、戦争もたけなわになり中止の己なさに至りました。

昨年客室一棟を建て除々に準備をし本年この一棟を建て増した譯です。來年はこの前に安會用の廣間を増築するつもりです。何分御覽の通りの交通不便な土地なので大工左官船大工等石城から連れて参り、一本の村木にも磨挽一揃を運搬するにも通りの苦心ではなかつたのですが、どうにかこゝまで出来上りましたので今一息で完成します。來年からは本格的に開業できると思ひます。自力で動力をひいたり、釣橋も個人で架けたいとも決して居ました。

三條の原始林に通ずる林道もすぐ傍を二千萬圓の豫算で縣費で開發されるとか、外資導入の奥只見ダムもすぐ間近の下流に出来るとか、色々とお話して下さいました。近く温泉はあるが露天風呂であつたり、部落共有のささやかな宿であつたり、おそらく奥只見唯一の温泉旅館と

謹賀新年

平市會議員一同

平市公安委員

この後、幾多の歌人が未だ見ぬ
關を想像して詠じたことであら
う。長徳(九百五十九年前)の
頃には清少納言が枕草紙の中で
「よな、よしの關こそ、
いかに思い返したるならん
いと知らまほしけれ、それを
なこそ、よしの關と云ふらん
と述べているが、この頃から東
北の磐地には行つてはならない
來てはならない、と云う語意を
持つ勿來の名が生まれたのでは
ないかと想像されるのである。
永承六年(八百九十九年前)陸
奥國の安倍氏が反亂を起したの
で源賴義、義家は朝命を奉じて
五里八幡神社を勧請して武藏を
新つゝ鎮定に向つた。平治八
幡、平の飯野八幡、双葉の廣野
八幡は五里八幡神社の一つであ
ると云われている。
これが前九年の役である。
その後、三十年を経て陸奥の
清原氏武衡が再び反亂を起した
ので義家は陸奥守兼守將軍に任
ぜられ鎮定に向つた。
最近東京朝日新聞社主催の調査
團が平泉の中尊寺金色堂に眠
る藤原一族のミイラを調査した
件が大きく報道されているがこ
の頃の史實である。
義家は戦勝に喜び勇んで歸路に
道を選んだかについては明かで
はない。時は寛治(八百六十三
年前)の初めの年の彌生の頃に
あつたが、彼の領地を喜ぶかの
如く勿來の關の山櫻は爛漫と咲
きはこつていた。義家は

吹く風をなこそ關と思へど
も道もせに散る山櫻かと思へど
と詠んだのである。この歌は石
城の勿來を一躍、天下に紹介し
日本史の一頁を飾り、あまねく
人々に知られるようになったの
である。貞永(七百九十九年前)
の頃には小野小町が新勅選集で
みかめる海士の行來をも
わがすなかに、なこそ關も
と詠んでいる。康文二年(六百
余年前)の頃には通行人を檢査
したと相馬文書にあることが
見て關が復活したようである。
當時磐城地方は足利氏の勢力下
にあつたことは平の飯野文書に
よつて證明されるから關守は主
として北畠氏の一族の通過を檢
査したものであらう。慶長(三
百五十九年前)の頃にはなと勿
來附近は内藤氏の領地となつた
が平城主内藤義泰は關に櫻樹を
植えたので櫻の名所となり、こ
の頃新町の藤原和泉が關を改修
したのである。承應元年(二百
九十八年前)新町の酒井半左衛
門が山頂まで山道を開いた。こ
の頃平の北部に於ては津村勝爲
によつて小川江筋が開發された
なこそ關
文獻には、なこそ關の名は次の
名古言、奈古言、名來言、名社
奈古須、波越言、莫來、勿來と
あつて發音の異なる万葉假名か
と意味の含まれた莫來、勿來と
變つたように思われる。
關の位置

關の位置については諸説がある
吉田東伍博士の海岸説、平澤儒
者神林復所、大須賀新野、諸根
一氏の現在の場所説、鍋田三
善の窪田、關本街道説、鍋田三
藏から茨城へ通ずる道路の中間
説などがあるが、私はこれら諸
説を結ぶ長城のような線が勿
來關であつた時代によつて場所
を移したに過ぎないのではない
か。白河の關跡を見てもこれと
同様に考えると、この關は
更に大きく考えると勿來と白
河を結ぶ一大防衛線と思はれる
ので見方をかえると勿來關は大
正十三年十二月に東北帝大總
長井上仁吉先生が、科學と宗教
と云ふ題で講演されて、
十三日會は必ず十三日に開催さ
れてたのだが、この時に限つて
十四日に開催された。
その理由はこうである。
井上先生は京都の人で、父親は
造言で酒樽の恰好をした墓石を
造つて呉れと云ふた程の大酒豪
であつたが、先生もその系統を
ついで酒呑であつた。學校の研



會十三日平 思ひ出

[2]

大森 勇

和朝進出の最善線であり、考古
學的に縄文化と彌生文化の境
界線とも見られるのである。
以上簡単に解説した。私は古い
もの必ずしも貴いものとは思わ
ないが古いものうちに新しい
力の源となるものがあれば、こ
れを探り入れて新しい出發をな
すべきであると思ふのである。
温故知新とはこのような意味と
思ふが聖地勿來の保存と紹介に
吾々は努力すべきであると思ふ
次第である。
(註筆者は磐城女子高校教員)

常磐礦業株式会社 八 莖 事 業 所

外 池 彌 咲



文獻に現わ れた勿來關

鈴木光四郎

まがき
去る五月七日勿來町では勿來關
千五百年祭を舉行した。勿來關
は石城郷土史に紹介しているの
で石城郷土史と日本史との關係
に於て其の概要を述べてみたい
と思ふ。
今から千四百四十年前の承知二年
の太政官符には關を置いてから
四百余歳と記されてあることか
ら見て勿來關は十九代元龜天皇

(千五百年前)の頃に関開かれ
たと云ふ、又關造本紀によれば千
八百余年前の成務朝の頃には多
城國が出来て關が置かれたとか
又或は應神朝の頃に関置かれたと
か諸説紛々としてゐる。
大化三年(千三百年前)の史料に
白河の關は諸國の關の最初なり
とあることから見て奈古言の關
こそ關が初めてではないかと考
へる者もある。養老二年(千二

して利用されるであらうこと、
思はれます。
夜更けて名物の滑子汁に舌鼓を
打ち、時雨の音を聞きながら湯浴
みして寝につきました。郷愁を
誘ふ夜鳥の聲は何鳥か一入哀
調を帯びて聞きます翌未明の入
浴、明け初める山の紅葉と、只
見良遊と呼ばれる風景を、湯壺
の中から眺める景観はおそろく
縣下随一ではないかと思われま
す。
其の日は目的の三條行き、何し
ろ大正の初め第一回國勢調査に
初めて発見されたといふ、胸突
き六軒の峠道、戸數僅かに十二
戸、今尚お父さんお母さんをト
トさんノさんと呼びで居る平

家の由緒ある人の後裔とか、磐
女高の鈴木光四郎先生あたりが
御一所だつたら等と考へました
風俗は本郷の筒袖にモンペ何處
へ行くにも「ひろい」といふ草
で編みだすをつけてお出掛けの
様です。この部落に分教場がな
し生徒總數十四名の僅かな生
徒の先生としてこの山中に生活
する師現には心打たるものが
ありました。
この峻峻な山々に數万石の山毛
樺林杉林が千古不滅の雄嶺と
茂つて居る林相はこれが日本の
内地かと思ふ程の雄大さ。
この杉は切株から傍芽を出して
成長する學名を熊杉と呼び國內
には越後の高田附近、青森秋田

民三ヶ月をまかなふに足る丈け
で一村の經濟は到底立て得ない
ので川口村と組合でやつて居り
ます只國有林の四千町歩と村有
林二千町歩がありますので、將
來は交通と諸事業の開発とを待
つて更生したいと考へてゐます
川口には縣立高等學校も一月一
日に開校しましたので教育に差
支へる様なことはありません。
鐵道も川口迄は路面が出来て居
りますので、これが開通の暁は
村の發展に拍車をかけることと
せうなど明るい御話をして下さ
いました。若松宿の豫定で午
後一時將來性ある本名村に別れ
を付けました。御多幸でと新
ながら(註筆者は本社同人)

食料公園平支所

〒 8 0 3

坂 本 爲 一

謹賀新年
磐崎村役場
草野村役場
上下小川役場
組合村役場
赤井村役場
廣野町役場

少年達はつかつかと進歩をたすけねばなりません。小學生なら十二時間から十三時間位、中學生なら十時間から十一時間位ねむる必要があります。一夜か二日か朝ねがはた大禁物です。野球選手になりたかつたら、飯所、藤林監督がこゝです。

阪神の藤林監督がこゝです。規律正しい生活をして、四十歳を過ぎても、りつぱな投手として活躍していることは少年達も知つて居る筈です。

第三に衛生を重むることです。手足をきれいにすること。汗が出たら必ずぬぐふにきかえる。ぬることは必ずぬぐふにきかえる。わりきつたことだが、そういうことが強いからだをつくるのです。

そして強い体こそりつぱな野球選手をつくるのです。

⑥野球に就て細かに御注意の二つ二つをどうぞ

一つは肩は肩をひやすなといひますね、なぜ肩をひやすとわるいのでしょ。

これは筋肉といふものを考へるすべからずわかります。

すべて筋肉は神経の命令で動く。動きかたがぶくなるのです。少年達にはありませんが、大人には投骨折折といふことがあります。投ぎすぎたの、ボールを投げようとするとき、ボールと骨が折れてしまふのです。きになつてみます。デニスの選手

思ひます。
 然しこれからのお母さんは子供
 の養育の面でこんなこと迄も研
 究しておかなければならないと
 思ひます。
 あんまりあたためすぎるとい
 けませんが適度にあたためるこ
 とは筋肉の動作を敏捷にします
 そこで投手等はいつもスエー
 ーをからつて指のことですが、
 私のしらべによると、つき指の
 いちばん多いのは、くすり指で
 す。つき指は五本の指の中で
 いちばん働きのいい指ですが、
 運動にもぶいでのびやすいの
 で、運動で先がまがった
 指のことを、ベースボールフ
 インガー（野球の指）といいま
 す。かるいつき指はひやしてじ
 つとしておけばなおりますが、骨
 ままである様な重いものは、し
 つかりのばして、板をあてて、
 ベースボールフインガーにな
 りない様にしなければならませ
 ぬ。少年達の体は柔かくできて
 いるから、むりをすれば、野球
 で大けがをする様なことは、
 ちやうどないです。それをやめ
 たやうちのすべりこみをやめ
 たりするから足を折ったり、ひ
 上脚を折ったりするのです、
 まだまだ御話したいことがあ
 りますが、今日は患者も多い様
 ですからこの次に譲ります。
 然しこれからのお母さんは子供
 の養育の面でこんなこと迄も研
 究しておかなければならないと
 思ひます。

科學は研究すればする程、人智と云ふものは限られたる一小部分であり而不確かなものである。従つて事は元素の数が年を経るに従つて多くなること、元素より猶ほ基本的な電子が現れて來たことからも想像される。二千年をこゝの文化しか持たぬ人類が、是、二十三年も監禁に閉ぢ出められた四人が、變態に出で出者張るのと同じ事である。宗教は科學に近寄りて云ふが之を違へた。科學が宗教に近寄らねばならぬのだ。

近來珍な大講演であつた。閉會後銀行の梯子段を降りるのに際し、平素は自力で降りるのだと思つて、今夜は一人も轉げ様になし事に神の恵を感ずる様になつた。

大正十四年四月富岡無線電信局木村嘉一郎氏のラヂオの話があつた。東京の普賢堂を坐り方々で開けると云ふので、その夜の十三日會に出席した人々は月世界にもて旅行する類分だ。警中警女の寄宿生が全部出席した人によつても、當時ラヂオは人氣的であつた事がわかる。それから聞いて、表二階に君がラヂオをひいて、表二階に機械を居えつけて放送して呉れ

たが本當に東京の名古屋からつた
の音響なのかと、不思議にも思
つたが、恐ろしいか當時は東京
より名古屋の方がよく聞えた
あたりから僅に三十年足らずだ
に、ラヂオの普及はこの通だ
に飛行機が日本で始めての
明治四十三三年大阪郊外で飛んだ
た。京阪神の人々は職場を休ん
で鳥の飛び行つたのでも、飛行
機は現れて来たものか、それ
類の幸福を推進するの、それ
人類は神を敬虔に導くこと
は人々に依つて切なること
だ。正十五年七月末葉孝氏が支
那問題に對して講演された、坂
本町内郷町出身の由身で、永
同書院の教授をされて、ジュネ
ーブの國際會議にも出席され
た代議士に當選されて平和國家
に代議に貢獻される人なのだが
今は既に悲しいかな。

青少年を持つお母さま
野球に就
綠

スポーツ醫學の世界的權威者、
日本醫科大學教授齋藤一男博士

大正十一年二月、龍川精一君は瀨州開成で演説を述べた。龍川君は當時中業して士官学校に入學したが、上官より忠告と慰問に於ては勝手な事をするので無理で卒業した。中學の時ナポレオンを崇拜して、ナポレオンの様な顔形になる事を模倣して呉れど床屋さんに去らずして呉れどつだ、平町やある面商の問題が起きた。荒川君は當時の田中首相や宮田光武氏と親しい懇意な間柄であつたので、永山勇吉君の紹介で荒川君と面談する事になつた。

伏見町長は湯村から、阿部政右門君は藤原から、私は平崎から汽車にて往り込んで上京したので、荒川道に行ったら永山君は待つてゐたらしく間に通れて待つてゐたらしく間に通れて待つてゐたらしく聞けて、白装束の偉丈夫が現はれて、先づ度磨を抜かれた。

彼等は冷酒や勝菓などが運ばれて已れに任かぜらるゝといふ返事をせよと迫られた事があつた。死に際して腹を切つた。

家に歸し、祖父たちや万歳とか呼ぶところを萬歳の聲を聞きながらこの世を去つた。

(註筆者は大森内科醫院院長)

人方へ

の御話

の郷土社

が平市大河内整形外科醫院に愛弟子として爲す一月一回來院

常磐線草野驛前

平市南町 下 34

平市白銀町 二 / 二

平市大町 〒683

磐城舞子

吉田昭彦

生れた土地を故郷と呼ぶ古里と... ことだつた。見知らずの廣い田圃...

して磐城のものであつたが、推されて村長となり、今や村長健康を祈るものである...

の鮮味に舌鼓を打つも面白い。更に北行すれば千古の神祕を老...



三、観光客の誘致及必要施設... 四、其他本會の目的達成に必要な事項...

映画の観方

新田目五郎

地に於て、この地一帯は天恵の要素を具備するキャンパの好適地なれば...

久之濱炭礦 酒井清 常磐線久之濱驛

新田目精神科醫院 關内藥局

俳句の語
山名菅村

櫻井苑外、中興承和、文若
 木頼までを實録時代とい
 はす。これらに享和時代の俳人
 の死没年代は次のような次第で
 櫻井 52、安永 9、也、
 寛政 82、天明 8、養村 86、一
 憲太 80、全、凡重 40、向雄
 寛政、青蓮 62、全、余雄
 62、全、養安 61、全、蝶
 64、全、關東 73、全、
 私は前號で「舊村の遺業はしは
 らう」篇の余韻を残してはいけ
 らうが、俳壇はまた間もなく芭
 蕉以後のように装えていた消
 を物語るものではない。この時
 に入ると、月沈して享和時代に
 散つて風流な風情で、面白く
 な、俳壇となつたことは事實で
 す。面白くない俳壇を覗くと
 はこれまた面白くない仕事で
 はありませんが、それも明治へ
 の離ざしい意味もありました
 う、少しばかり述べてみまし
 う。享和時代に入ると、以上の
 うに諸々の連者相次いで死去し
 たためです。それから寂寥感を
 感じたわけですから、彼らに次
 力を有つてそれらの地方に勢
 力を有つてそれらの地方に勢
 に凡事、月居、重厚、百池、
 大阪に大庄屋、奇濱、伊豫に袴
 堂名大庄屋土朗、佐竹、甲斐
 風外、可都里、信濃に殿家、

一茶、江村に宛來、建庵、
 成美、葛三、星布衣、碩布
 吟江（乙成美の弟）、東北地方
 は、二が白石に、曰人が仙台に
 に、冥が二本松に、五明が秋
 田に、長岑が酒田に、東北が南
 部に置出しては、私どもが南
 の俳人が現れたのは私ども東北
 人としても注意してよいこと
 しよう。併し、その作品業績は
 いうまでもなく、その大した
 のではありませんでした。むし
 ろ、文化史の上からその價値を
 論ぜらるべきでせう。このこと
 あらゆる餘然として頭角を
 あらわしたのには前にも述べた
 兒童ですが、この時代の初めに
 死んだからといって入つたの
 です。一茶は當時すでに詩人、
 も個性の明らかな詩人であり、
 封建社會の頽廢期に對して生
 なにユーモアを發揮した藝
 術家であり、また達つた意味は
 真門談林とはまた違つた意味
 人間主義の情調、その情調は烈しい
 又ロカールカールの濃さ
 うかがわれます。そして封建社
 會の世襲する苦惱を彼獨特の姿
 で表現してしまひました。私は
 彼等の作品としてのみならず、
 彼の俳句を芭蕉や無村のやうに
 第一流とみなすものではない
 せん。かといつても第二流とか第
 三流とか申すのべき獨立獨歩の風
 格が彼の俳句にあるよりです。

異様に主観的、主情的俳句であります。彼らが、私どもが彼の俳句にありましてさける種の人間の郷愁に驅られるのはなぜで、それは彼が現の根源に勇敢に率直に人間の本と一如の境地を²⁴達しているところでありました。彼の句に子供や小さな動物をも詠んだものが多いのもこのためです。そして彼のあのたゞ立場というものは難くいへば、何ものかゝの壓力に反撥し抵抗して爲されたもの、封建社會の構成する沈滞した鬱悶氣を身を以て拂ひのけやうとする彼獨特の理念が、一句一句に燃え盛つて一種の怪しい青白い炎を發していたとも考えられるのであります。享和俳壇を通じてにあつて、面白くないでもないこの時代の俳壇をのぞくにあたつて私どもは目をしばし留めるのであつたらぬべきでないでしょうか。確かに彼は問答人は後であります。古い俳史家は彼を評して「俳界の彗星」句を擧げています。そこで一茶の鳴鶴に赤ん目をして手鞠かなけるわろんととして鳥と柳かななりから、
籠り出たるは此蘆の葦にて候
行秋を尾花がはさねらばかな
大根引大根で道を教へけり
蚤のあと數へながらに添乳かな
な
たのもしやてんつるてんの初涼風の吹く木へ縛るわが子かな
わなばくや縛られながら呼ぶ聲

などを始め、多くの、一茶などでは出来ぬような句が澤山あります。勿論「大根引」とはいません、現代の俳壇ではこんな句は通りません。併し一句や三句だけを出して見せようといふなら、この作者はつまらないところ、これは甚だ危険なところ、最近の如く縮減することは、「句のよしみ」ではない。句色もひである。」といふことができます。酒をつんで矢張する人も起きます。うつかりて舌禍をき起す人々もところから。併しこれに大きなところからその體を判斷すれば、それこそ、それが、それは大した問題ではないところだと暫くあります。
なお、以上現在までの俳壇で往々にする傾向なしとしません。體にことごとくおもしろい。語に興が移り、いつつい長にもつてしまふ句で、
もうひとつ右の句で、「²⁵更だほむと云ふ有の句で、²⁶」
今、今年私の長女が小学校級の學の際、その式場で校長先生の句をお父さんお母さんは皆さん大きくなるのをよろこんでいます。」といひたいことと私は感服したこととと、
と致意したのであります。
同時代の人連中の作品を介いたします。
杉苗に身を隠してや雉の聲
地車に油を塗るや雲の家
梅ちるるや浪花の夜の道具
闇の戸にほのぼの見ゆる原
行桑や背戸門あけて麥の雨

山何な二でないで 卷あに全現道茶語に一がのるだ。茶紹

道彦 家二つ戸の口見えて秋の山
まさざと水に入れけり藤の花
葛三

磯山の懐ひろき枯かな
大空も七夕の夜となりけり
碩布

大島が見えて栗笑ふ梢かな
さめざと一時雨ふく月
長辛

宵血年の一夜をたみけり
思ふことなき夜春雨ふにけり
哀雲

中よしの蝶々來たり小茶垣
鳥遠し雲に入るさの腹白垣
夏布女

山口や潮菜に鳩のあゆみよる
草山と落葉に地に歸る雁
美

昇る日に霧の雪や門の菊
春の月胸のかしらを並べけり
月朗

太泰は竹ばかりなり夏の月
鴨滅て水の淋しき二月かな
梅堂

秋風の下にねてゐる漁村かな
風に珠散りて日永し天王寺
外

走り出る青竹原の清水の月
草笛の上手つくじぬ夏の月
風居

草臥れて薙の如し秋の月
つばくらや花なくなりし三軒
百池

家は子らと露の中に朝の月
竹のはやあまてりなどか人の
庭庭

大江丸
つぎりきなかみくに渡き柿二
年々に櫻さなき故郷かな

暮き日や百合のはさまる草の

(註)筆者は勢高教官(べん) ちん 睦人(めいじん)



草花栽培法
についで
【3】

17

木は之れを用ふる挿穂の種類
よき之れを用ふる挿穂の種類
挿穂等に區別致します。
枝挿、葉挿は普通一般に利用
される方法であります。之
に用ふる枝は春挿木を行ふ場
合であれば前年に成長したと
ころの枝を用ふるのでありま
す。挿木花のやうな常盤木
下等即ち前年成長したは新梢の
二、三寸位残して挿穂と致し
ます。挿木に用ふる枝はよく
充實した葉を用ふることに致
します。又蘭に蘭子挿(玉挿
)と云つて粘土(赤土)を丸
く堅めて蘭子のやうに致し
してそれに挿穂を挿し、床挿
とするのであります。之
れは主として發根の容易でな
いもの、或は山茶花等のやう
な常盤木類を挿木する場合等
に利用される方法であります
。芽挿、之はカーネーション
タリヤのやうな多年性の花草
等を繁殖する場合等に利用さ
れるのであります。之れから
成長しやうとする若芽を取
つて挿す方法であります。之
れはよく草花類を挿木する場合
に最も一般的に行はれる
方法であります。
ハ、葉挿、葉挿とは挿穂として
葉を用ふる方法で、葉線又は
葉脈より不定芽を發生せし
めまして苗を作る方法であり
ます。「ダウツキヤニ」
ペコニヤ」「菊」のやうな多
肉質の葉を有するものゝ繁殖
に利用致します。葉を葉線の
の上に平に置きまして、葉線
と葉線の處々を砂の中に挿込み
乾燥しないやうに注意致しま
すと砂中に入つて居る葉脈及び
葉線の部分から不定芽を發生
するものであります。
ニ、根挿、根挿とは根を挿穂と
して苗を作る方法で、海棠の
やうな根から枝梢を簇生する
植物を繁殖する場合等に利用
されます。之の方法は根の長さ
寸位に切りまして、根の上端
を僅かに地上に出して土中に
挿し、しめして根から不定芽を發
生せしめまして苗を作るので
あります。
三、株分及び枝取
り、株分、株分とは云ふのは一株
を數々に分割して繁殖する方
法であります。櫻草、アル

メリヤ、アムリヤ等のやうな宿根草類の繁殖に利用されます。株分時の時期は春開花するアルメリヤ、櫻草等は主に秋に行ひます、又夏秋に開花するものは春に行ひます。株分後は乾燥と強烈な日光の直射を避けるやうにせねばなりません。

・枝取（壓條） 枝取りは挿木のやうに親木より切り離さなければならぬ。土の中に入れ、根の張る迄はその中にし致しまして根が張つて参りましたならば苗として親木より切り離しまして苗を作る方法であります。枝取りには普通二つの方法があります。

ツツジのやうな強性灌木は春秋株の周圍に土を盛り上げまして多くの枝の下部を土の中に埋め置きます。掘められました根の基部より發根致しました根が生じましたらならば基部から切離して苗を作りまして之の方法を盛取法と申して居ります。

次に高取法と申しまして高い處の枝を利用して苗を作る方法をあります。目的の枝の兩端を一寸位も削りまして、二部分したければ竹筒等で割つた中に入れたか合せて其の被ひ土の乾燥漏れを遮斷させるやうにして發根を促進させると共に致します。充分發根致しましたら親木より切り離しまして苗を得る方法であります。又鉢の代りに水苔等を利用致します。

六．移植

花草類を移植するには特に丁寧に取り扱ふやうにせねばなりません。先づ移植前に充分灌水致しまして根を傷めない様に移植盤、又は竹べらのやうなものに堀り取る様に致します。根を傷れる様に致します。根を傷れると葉面より蒸発する水分と根から吸ひ上げる水分との平均を失ひまして萎れるのであります。然し細根發生の旺盛なもので死ねば多少根は傷けられても死ねる様なことはなく、却つて多くの細根を發生するものであります。根が成る可く切断しないやうに注意することが大切であります。移植する日は暖かく曇天無風の日を選ぶことでありまして、都合で晴天の日に行はなればならないときは夕陽又は雨後の選んで移植を行ふやうに致します。移植の深さは前に植込んであつた深さと同等か又は少し土を盛上ぐる程度とし深からず、淺すぎないやうに致します。寧ろ乾燥しいしなけば深く過ぎるよりは稍々淺目に植えた方が一般に移植後の發育にも良いものであります。移植したならば根本を手で壓へ充分に灌水致します。この場合特に數回の灌水致すれば根元近くに密着してくるか又は簡單な日覆ひ等の設備をしてやれば活著る容易でありまして、次に鉢植えの場合もありますが、古い鉢を使用する場合

岩等を取り去りまじ乾しつて土に用いるやうに致します。又三寸以上の鉢で水生植物を植ゑる時は必ず鉢を水中に入れて鉢に水を分を與へてから植ゑることでありませう。そう致しませんと鉢が土壌の水分を吸収するばかりでなく、尙更に植物の水分をも吸収致し、それで其の必要はありませう。鉢ではよく燃然したもので鉢にかけまして鉢の上と下とに分け又は鉢の排水孔にふきそり又は炭か骨粉を孔にふきそりの上四寸以上の鉢等であれば鉢の網土を入れ其上に植ゑる植物の鉢の中央に入れてその周囲又鉢下の培養土を鉢の淵から五、六分位の所まで鉢の淵手で鋪き、この際殊に鉢に鉢の内側の土を充分鬆すこと。この際殊に鉢の土の堅度と網土の間に於ける堅度と同程度位にするのが良い。水分が多過ぎるとこの部分に水が過ぐると根の腐敗を起し易く、又酸氣が過ぎると乾燥し易いものとありますから鉢内に、様々堅度と持つて居るやうにすることが切實であります。植ゑ終れば充分澆水で日よく覆ひをして置きます。數日たつと新芽が立つて來ますから新芽が立つて來たならば餘々に日晝に當るやうに致します。

(社筆者は縣園藝原種農場技師)

(註筆者は縣園藝原種農場技師)

緑の郷土社

福島縣森林組合聯合會

福島縣廳

編輯を終へて

凸版が間に合はなかつたり、豫定の原稿が未着であつたりして
新年號としては特に見やりする
ことを認めて居ります。縣から
も後援を受けて居ります以上
責任を痛感いたします。
來號は編輯に慎重を期し度いと
存じます。不味い点は何分の助
言御願ひいたします。

昭和二十六年 一 月 一 日發行

發行所 緑の郷土社

福島縣平市飯搦小路12

滿 田 吉 人 集 編
發 行

印刷所 加納活版所

書籍 雜誌

文化日本は
読書から
ヤマニ書房

孕服前 TEL.777

金屋

TEL. 9.99.999

織田齒科

平市南隅

平市金融困

東勤常七富平大福	邦業陽十士東島	銀銀銀銀銀銀銀銀	行行行行行行行行	平平平平平平平平	支支支支支支支支	店店店店店店店店
		七信無無	行行行行行行行行	平平平平平平平平	支支支支支支支支	店店店店店店店店
		盡盡	式式式式式式式式	會會會會會會會會	組組組組組組組組	支支支支支支支支

正 賀

常磐炭礦株式會社

社 長 大 越 新

内 郷 碓 長 寺 田 壽

陽 本 碓 長 白 川 長 広

磐 崎 碓 長 鈴 木 甚 吾

三猿文庫 46

昭和二十五年十二月二十五日印刷
昭和二十六年一月一日發行

緑の郷土

(定價四〇円)

印刷所 加藤の郷土版社